

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年8月3日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891200016		
法人名	有限会社 凜成		
事業所名	グループホーム 花あかりの家	ユニット名	1階
所在地	313-0106 茨城県常陸太田市下利員町1262-1		
自己評価作成日	平成28年3月15日	評価結果 市町村受理日	平成28年8月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0891200016-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0891200016-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年4月19日	評価機関 決 済 日	平成28年8月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

山間の静かな環境の中で、ゆっくりとのんびりと時間が流れ、花あかりの家での1日ご利用者様との笑い声や笑顔で溢れています。四季折々の景色を見ながら、心地よい陽の光を浴びる事が出来ます。梅や桜、水仙の花に春を感じ、五感で四季を感じることが出来る幸せを、ご利用者様と職員で分かち合っています。また、近所の方々との交流もあり季節の切り花を届けて頂いたり、野菜・果物のお裾分けが届いたり、花あかりの家が地域に根付いてきていると思います。一番の自慢は職員が明るく笑顔で溢れているせいか、施設内も明るい雰囲気をご利用者様の明るい声と笑顔が見られることです。今後も、ご利用者様本人やご家族様の思い・要望を支援の中に組み込んでより質の良いサービスが提供できるよう努力し、居心地の良い「家」にしていきたいと思っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は周囲に畑が広がる自然に恵まれた山間に立地しており、四季折々の風景を楽しみながらのどかに暮らせる環境となっている。  
事業所内の全ての床が木造で、温もりのある空間が広がっている。  
3名の常勤看護師が勤務していることから、利用者が重度化した場合や、事業所での看取り介護が可能となっており、協力医療機関との24時間連携体制が整っていることは、利用者や家族等の安心へとつながっている。  
職員は常に利用者のつぶやきに耳を傾け、ラーメンや手作り餃子を献立に取り入れるなど、利用者の要望にそったサービスの提供を心がけている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービスの資質を高め、それが地域に貢献していくことになるという意義がこめられている。朝礼の際に、「資質の向上に努め地域に貢献します。」という理念を復唱している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を開設時に代表者や管理者、職員で作成し、事務室や1階のユニットに掲示するとともに、毎日朝礼時に唱和して共有し、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は10月に秋祭りを初めて開催した。納涼祭同様、ボランティアの方やご家族の方、入居者に歌や演奏・踊りなどを披露していただいた。近所の方が四季折々の花や野菜を届けてくれた際には一緒にお茶を飲んだりしている。徐々にですが、馴染みのある関係が築かれている。	事業所は町内会に加入しており、散歩時に地域住民と挨拶を交わしたり、季節のお花や大根、トマトなどの野菜のお裾分けを貰うほか、事業所主催の秋祭りに、家族等や地域住民の参加を得ている。 市民運動会や地域の夏祭りに招待されて、利用者と職員が見学に行くほか、毎年年末に事業所のオリジナルカレンダーを制作し、近隣住民や家族等、日頃お世話になっている方々に配布している。 隔週で来訪する傾聴ボランティアや、事業所の秋祭りに来訪する三味線やバンド演奏のボランティアは、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を通して、地域の方や家族代表の方に入居者の状態を把握してもらい、理解をしていただいている。家族代表の方にも貴重な意見をいただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回行われている運営推進委員会では、役所の方、地域の方、家族代表の方に入居者の状態や状況を報告し、要望などを聞き入居者のことを理解していただき、今後の取り組みについて助言をいただいたり話し合っている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、市議員、民生委員、町内会長、老人会長、代表者、管理者で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や運営状況の報告、外部評価の結果、課題などを話し合うほか、委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。 行政書士が講師となり、成年後見制度の研修会を開催して職員も参加したり、委員から「家族会を作ってはどうか」との提案を受け、昨年家族会を立ち上げた。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会を通して入居者の現状や状態を報告し、市の関係者に理解をしていただいている。空き状況を担当者に伝えコンタクトをとっている。	市担当者が毎回運営推進会議に出席しているほか、要介護更新申請時などに、電話だけでなく直接市担当者に出向き、入居状況や介護保険法改正に関するアドバイスを受けて、入退居連絡票にて利用者の状況や空き状況をFAXで連絡している。 年1回市の生活保護担当者が来訪し、生活保護受給者の相談やサービスの取組みを伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は、1階ホールから玄関近くの出入り口が見えなくても施錠せずいつもオープンにしていたが、現在は施錠している。胃瘻造設者には状況に応じてミトンの着用をしています。	職員は月1回のミーティング時に身体拘束について話し合い、職員間で共有している。身体拘束排除に向けたマニュアルは作成しているが、その中に言葉の拘束の記載や、それをもとにした内部研修を行うまでには至っていない。現在身体拘束を行っている利用者が3名いるが、いずれも本人や家族等に説明して同意を得ており、職員で話し合っ「経過観察記録」や「再検討記録」に記録し、家族等に報告している。	身体拘束排除マニュアルに、言葉の拘束など具体的な行為に関する内容を加え、身体拘束をしないケアへの理解と実践のために、内部研修を行うことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	役所からの通達や情報をもとに毎月行っているミーティングでスタッフに説明や研修を行い、現場で虐待行為を行っていないかの確認を行い話し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会はあるものの、それをなかなか現場のスタッフ全員に理解浸透させるのは時間がかかりますが、今後も学ぶ機会を設け理解を促したい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約に関しては、主に社長が契約や入居に関しての説明を行い、納得されたうえで入所されている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にはできるだけ面会に来ていただき、顔を見せて話をさせていただくことで、入居者との絆を大事にしている。面会に来られた際には、今現在の状態を報告し、本人にとって今より良いサービスを行えるように心掛けている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記して、契約時に家族等に説明している。 利用者からは日々のふれ合いの中で、家族等からは面会時や家族会時に意見や要望を聴くように努めており、「外出の機会を増やして欲しい」との家族等の意見を受け、散歩の機会を増やすなど、意見等を運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、主に月1回のミーティングで一人一人から話を聞くようにしている。また、ミーティング以外でも朝礼時や現場などでできるだけ一人一人から話を聞くようにしている。	管理者は週1回の職員会議時に職員の意見や提案を聞く機会を設けているほか、日頃から何でも話し易い関係づくりに努めている。 職員から「利用者の薬をわかりやすくして欲しい」との意見を受け、利用者毎、食事毎に薬を分けてシールを貼り、配薬をし易く改善したなど、職員の意見等を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフに居室担当の係を設け、支援内容の把握を行い責任感を持って働いてもらっている。また社長（施設長）が毎年各人と面談を行い、要望や意見を聞く機会を設けている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者やスタッフが受けてきた研修を、全スタッフに理解してもらうために資料の配布や勉強会を実施している。月1回の割合で社内研修を予定しているが、毎月は実施できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会やケアマネージャー連絡協議会の催す研修会に参加を呼び掛けたり、参加して勉強会の参考にさせてもらっている。興味のある研修にスタッフ個人が参加する機会も増えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に管理者がご家族やご本人と面会をし、担当ケアマネから情報をもって参考にしながら、ご家族の気持ちや要望・ご本人の気持ちや状態を導き出し、スタッフに申し送って対応の参考にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同じく管理者がご家族と連絡・連携を取り合い、ご本人の今の状況、ご家族の要望に耳を傾けてスタッフに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所された入居者一人一人に合った支援・サービスをケアマネがケアプランに反映し、スタッフがそれぞれに基づいて実践するように心掛けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限りスタッフが入居者の生活を支援し、一緒に話をしたり、食事をしたりしながら寄り添い入居者の気持ち・思いを受け止め共に生活することで、スタッフと入居者の関係を深めるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはできるだけ面会に来ていただき、顔を見せて話をさせていただくことで、入居者との絆を大事にしている。面会に来られた際には、今現在の状態を報告し、本人にとって今より良いサービスを行えるように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた知人や親戚の方に再度来所してもらえるように声かけをしている。また病院やお店、地域の催し物などで知り合いの方に遭遇し会話をすることで、再度親交が深められ楽しみとなるよう関わりをもてるようにしている。	職員は入居時のフェースシートやアセスメントシートのほか、家族等の来訪時や利用者との日々の会話などから、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 職員は家族等や知人が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるよう配慮したり、利用者が行き慣れた店での買い物や理美容室、墓参り、自宅への外出や外泊など、家族等の協力を得ながらこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように支援している。 2ヶ月に1回近隣の美容師の来訪がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけホールで過ごす時間を長くとれるようにスタッフが関わり、レクリエーションの実施や毎日の日課の歌や体操、口腔体操を必ず実施しながら、入居者同士が関わって楽しめるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前はケアマネがご家族と連絡を取り合い必要に応じて対応をしていたが、現在はあまりできていない。いつでも気軽に訪問して頂けるよう声かけはしている。時折、懐かしく訪問してくれるご家族があります。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所前にアセスメントシートを作成し、生活歴や入所までの経過や思いなどを書き込み全スタッフが把握できるようにしている。また入所後はご本人の思いを汲み取れるように「つぶやきコーナー」を設け入居者の思いを共有するようにしたがあまり活用されていない。	管理者や職員は、入居時のフェースシートやアセスメントシートのほか、日々の関わりの中で会話や行動を観察しながら利用者の思いや意向の把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者には、表情や仕草から判断したり、家族等から情報を得ている。 把握した内容は「個人記録」やユニット会議で周知し、全職員で共有している。 各ユニット毎にフロアの壁に「つぶやきコーナー」を作り、職員は利用者のつぶやきをメモにして貼り、共有している。	個人記録に利用者のつぶやきや仕草などを残し、一人ひとりに対する職員の関わりや、対策について話し合った結果が見える記録を残すことを期待する。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントシートを作成しますがその時入居者の生活歴や思いを書き込むので、各スタッフが各入居者の生活歴を把握し理解するように心掛けてもらっている。			
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今その人（入居者）のまだ出来る可能性のある残存能力を活かすために、その人（入居者）の持っている（残っている）能力・特性などをスタッフ全員が把握するように申し送りを徹底し理解に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者が中心となり、看護師、ご家族や介護スタッフからの意見を取り入れたりご本人の要望があればケアプランに反映させるようにしている。	介護計画は利用者の意向や家族等からの要望、看護師や管理者、職員の意見などを取り入れて計画作成担当者が作成するとともに、6ヶ月毎にモニタリングを実施し、短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月で見直しをしている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果は毎日のケース記録にその時対応したスタッフが随時書き込むようにしている。その情報はスタッフ全員で共有しあい、1日の申し送りとして伝えるようにしている。支援記録は各居室担当のスタッフが書き込むようにしているがほとんどできていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者とご家族との間で、現在のご本人の状態、今後どうしていきたいかなど話し合い、入居者が安心して過ごすことができるよう、スタッフの理解を得ながら新たなサービスにも取り組むようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々ボランティアの方にレクリエーションを実施していただいている。病院受診は太田市内の病院をかりつけにして対応し、近所にあまりお店がなく買い物に出る機会は少ない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される際には、ご本人やご家族からの要望などを聞いている。特に希望がない場合は近くの病院を勧め、その病院との連携を図っている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援し、その際は、家族等が付き添うことを基本としているが、都合が悪い場合には職員が同行している。 家族等が付き添う場合は、事前に書面で利用者の様子を伝え、スムーズな受診ができるよう支援しており、職員が付き添った場合は、家族等の来訪時などに結果を連絡して申し送りノートや個人記録に記載し、職員で共有している。 常勤の看護職員3名が利用者の健康チェックをしており、協力医療機関との24時間連携体制が整っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りで各入居者の状態を把握しているが、夜勤者や日勤者が気付いた時点ですぐに診てもらえるように報告、相談をして様子を見ています。また継続的な処置も看護師中心で対応しているが、各スタッフも処置ができるようになっている。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、サマリーを作成し病院に届け、看護師や管理者が随時、病院に様子を伺い病院関係者やご家族と連絡を密にし、情報を交換したり相談しながら現状を把握している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所後の身体の状態をご家族に報告し把握してもらいながら、病院受診が多くなってきた時にご家族や病院の先生と話し合いを行いながら、その後の支援に取り組んでいる。状況を把握しご家族の思いを確認しながら慎重に対応していく。2月に看取りをおこなった。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、入居時に家族等に説明して書面にて同意を得ている。 現在までに看取り介護を実施した経験はあるが、看取り介護マニュアルの作成や重度化・看取り介護についての内部研修を実施するまでには至っていない。 利用者が重度化や終末期の状態になった場合には、協力医療機関の医師と家族等を交えて十分な話し合いを行い、方針の統一を図ることとしている。	看取り介護マニュアルを作成して内部研修を行うことにより、利用者や家族等、職員にとって不安なく支援ができるよう整備することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は定期的には実施しないと浸透（理解）しないので、年間の訓練を増やし対応します。定期的なAEDの実施訓練はできていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	5月に夜間想定、11月に昼間想定での避難訓練を行った。近隣への呼びかけを準備しているが、まだ実施できていない。今後、災害が起きた時にどうしたらいいかを話し合い、スタッフ全員が身につけるようにしたい。	夜間想定を含めた避難訓練を年2回実施しているが、地域住民の参加を得るまでには至っていない。 訓練結果や全職員で話し合った反省点を明記し、次の訓練に活かしている。 災害に備えて米や水、食料品、懐中電灯、おむつ類、毛布などを一覧表を作成して定期的に管理しながら備蓄している。	近隣住民は高齢者が多いとのことなので、見守りを中心に訓練参加の協力が得られるよう、運営推進会議などで呼びかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには十分に気をつけて言葉かけをしている。トイレの声かけや排便の有無の確認は本人にだけ聞こえるように小声できるように注意している。入浴時のロールカーテン使用、トイレの介助時はきちんとカーテンを閉めるようにプライバシーの保護に取り組んでいる。	職員は常に利用者の尊厳やプライバシーを損ねない言葉かけに配慮しており、トイレ誘導際には小声で声かけし、カーテンや扉を閉めて待っている。 事業所内に掲示してある写真や、居室入口の名前の掲示など、個人情報に関する同意を書面にて家族等から得ている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管して情報漏洩に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日言葉かけを密にし、出来るだけご本人の気持ちや訴えを聞くようにして、それをスタッフが共有することで日常のケアに繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはこちらの1日の流れに沿って行動してもらっているが、ご本人の希望や都合を聞きながら、声かけ、またはご本人の状況を察知しながら、その時その時でベストな対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時々、スタッフが口紅やマニキュアをしてあげたり、外出の時など身支度を整えてその時期に合った洋服を着てもらおうように心掛け、スカーフや帽子などその人らしいおしゃれができ生き生きとその時間を過ごせるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが入居者と一緒に食事をしている。入居者から好きな物を聞いて、外食したりお楽しみメニューとして刺身やラーメンなどを取り入れている。また、野菜の皮むきや食事後の食器拭きを手伝ってもらうこともある。	献立は同一法人の調理担当者が、自家菜園の食材を取り入れたり、利用者の好物や苦手な物を考慮して交代で作成しており、苦手な食材の場合には代替食を用意して食事が楽しめるよう配慮している。 利用者はできる範囲で野菜の皮むきやテーブル拭き、食器拭きのほか、職員と一緒に下膳なども行なっている。 職員は同じテーブルに着いて同じ食事を摂っている。 おせちや雛祭り、クリスマス会などには行事食を提供し、誕生会にはケーキを準備して祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に食事・水分量をチェックしているので、それを見ながら日々調節している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし、口腔ケアを行っている。口腔内の状態に応じ歯ブラシとスポンジを使い分けている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間はオムツ対応の入居者もいるが、日中はリハビリパンツに替えてトイレに誘導し排泄し、状態に合わせての自立支援を心掛けている。	職員は排泄チェック表や個人記録を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや時間の誘導により、トイレでの排泄ができるよう支援している。 おむつ使用の利用者でも、日中はリハビリパンツを使用し、トイレで排泄ができるよう支援している。 夜間もトイレでの排泄を支援をしている結果、夜間おむつからリハビリパンツに変更になった利用者があるなど、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見ながら毎日の排便の確認を行い、便秘気味の入居者にはマッサージをしたり食べ物を工夫したり、または薬を調節しながら便秘にならないよう対策をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来るだけ入りたい希望がある時には入浴できるように支援に努めている。拒否をする入居者には言葉かけの工夫やタイミングをみはからい入浴を楽しめるように心掛けている。	入浴は週2回を基本とし、利用者の希望によっては毎日入浴ができる体制となっている。入浴を拒む利用者には職員を替えたり、時間帯を変えるほか、清拭や足浴などで対応している。柚子湯や菖蒲湯で季節感を感じたり、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人にとって一番いい1日のリズムができるようスタッフ全員で支援している。入居者によって昼寝をしない方もいるので、その時の状態に合わせたケアを判断して行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐために服薬させる前に必ず名前を確認する事、また服薬させるスタッフをあらかじめ決めておくように取り組んでいる。別なスタッフが関わる時は必ず声かけをするようにしている。また、ご本人の状態に薬に関する事であれば、医療機関に経過報告や情報を公開しそうだんするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人が好きで、趣味などについての話をしながら日々の生活の中に取り込んで活かしている。それによって充実した毎日を送れるよう支援している。食べたい物を外食する支援も行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ四季を楽しめるように外出の機会を設けたいが、なかなか施設全体では一人一人の希望に沿った外出はできていない。暖かい時期はできるだけ外出の機会を持つようにしている。一部の入居者は、ご家族の協力で外出し食事などを楽しまれる方もいる。	天気の良い日には、利用者と職員で事業所周辺の散歩をしたり、車いすの利用者も一緒に親水公園や西山荘など、普段は行けない場所へ出かけているほか、弁当を持参して季節の花見に出かけるなど、気分転換が図れるような外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状ではお金に関して特に訴えはなく、所持している入居者はいない。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階の入居者は面会に来られるご家族が多く、電話をかけたり手紙を書くことはしていない。面会時にホールや居室で会話を楽しんでいる。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族・スタッフ・近所の方から頂いた花々や季節に沿った飾り付けをしている。ホールには入居者が染めた塗り絵を貼るコーナーを設け作品を飾ることに喜びを見出している。また、季節ごとに雛だんやこいのぼりを飾ったりクリスマスツリーを飾りつけて四季を楽しんでいる。	利用者が日常生活の大半を過ごす居間兼食堂は、天井が高く明るく広々としており、季節の花を飾ったり、マッサージチェアやソファを配置し、利用者が思い思いに寛げる空間となっている。 居間や廊下の壁面には利用者のぬり絵作品などを飾り、季節を感じ楽しめるよう工夫している。 2階の踊り場には造花や日本人形、籐椅子、テーブルを配置して面会時に利用するなど、居心地よく過ごせる場所となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置いたり写真・塗り絵・制作物などを飾ったりして、入居者が立ち止まれる場所を作っている。天気の良い日には日光浴をすることもあるが、主にホールでの活動が多い。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお願いして使い慣れた衣装ケース、タンス、お人形などを持って来て頂いて居心地の良い部屋になるように心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物が広々とした設計になっているので、長い廊下を活かして歩行訓練を行ったり、ベットやイスなどはその入居者に合った安全でかつ自立できるようなものを随時選んで様子を見ています。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが ○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 花あかりの家

作成日 平成28年8月15日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束排除マニュアルに、言葉の拘束など具体的な行為に関する内容を加え、身体拘束をしないケアへの理解と実践のために、内部研修を行うことを期待する。	マニュアルの内容の追加と内部研修の実施。	身体拘束の11項目の追記と施設内に11項目の掲示をする。また、内部研修を行う。	6か月
2	23	個人記録に利用者のつぶやきや仕草などを残し、一人ひとりに対する職員の関わりや、対策について話し合った結果が見える記録を残すことを期待する。	職員はつぶやきや仕草を常に記入する習慣をつける。	職員が記入しやすいように記録用紙の様式を変更し、つぶやきや、仕草、その時どう関わったのか記録できるようにする。	12か月
3	33	看取り介護マニュアルを作成して内部研修を行うことにより、利用者や家族等、職員にとって不安なく支援ができるよう整備することを期待する。	看取り介護のマニュアルを作成し、内部研修を実施する。	代表・看護師・管理者を中心にマニュアルを作成し、それに沿った研修を行う。	12か月
4	35	近隣住民は高齢者が多いとのことなので、見守りを中心に訓練参加の協力が得られるよう、運営推進会議などで呼びかけることを期待する。	近隣住民や消防団の協力・参加の呼びかけを工夫し、協力が得られるようにする。	近隣の方には消火器やAEDの使い方を学んで頂く場所の提供をし消防署や消防団の協力を得る。避難訓練の際には館内に入って頂き、訓練の様子を見て頂くことで自然と協力が得られるようにする。	6か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。